

広報 ごじょうめ

発行所 秋田県五城目町役場 編集 総務課 電話(018876)代 2100番
印刷所 湖東印刷所 電話(018876)2430番 (一部五門)
郵便番号 018-17 毎月1日・15日発行

人口と世帯

世帯数	3,914	世帯	
人口	18,194	人	
内訳	{ 男	8,812	人
	{ 女	9,382	人

住民登録簿 (46年12月31日現在)

転入・転出の場合はかならず窓口へ届出ください。

ここに二つのデータがある。

一つはドイツのものだが、150㎡

の木の葉の一日の酸素供給量は、

人間一人の酸素必要量に相当する

事が実験であきらかにされている。

今一つは騒音吸収の作用だ。東京

の原宿駅前とそこから60m離れた

神宮外苑内の騒音を比較したとこ

ろ、樹木に囲まれた外苑内は昼間

でも深夜の東京都心なみの静けさ

であったという。緑の重要性を裏

づける単的な例である。

四方に山をめぐらすわが町には縁の

ない話題のようにだが、道路網の整備

によるモーターゼーションの生活

化、山砂利採取業者の緑を削とくす

る姿等環境破壊の条件は備わって

おり他人事ではない。

この時にあたってわが町に「い

いの森」の設置が決ったことは誠

に意義深いものがある。

今その工事は暖冬のお陰で順調に進

行している。基幹道路ならびに側溝、

遊歩道、樹木の植換え等緑の園は次第

にその姿をあらわしはじめている。

国では昭和60年までに、都市人口一

人当り10㎡の公園を確保するとして

とりあえず向う5カ年で現在の2.8㎡

を2倍まで引きあげるといつている。

わが国の公園の現状は経済大国として

誠にお粗末なものである。

ロンドンでは一人当り22.8㎡、ニュ

ーヨークでは19㎡の公園が確保され

ているが、東京では1.1㎡、そして

わが町では約0.18㎡である。

豊かな社会とは巨大な生産力を維持

すると同時に豊かな緑を確保する

ことにあるといわれている。

公園の果す意義は今更いうまでも

ないが、健康づくりの立役者であ

り、環境浄化の医者でもある。

また災害時の避難場所にもなる。

「いこの森」が60haの緑と小島

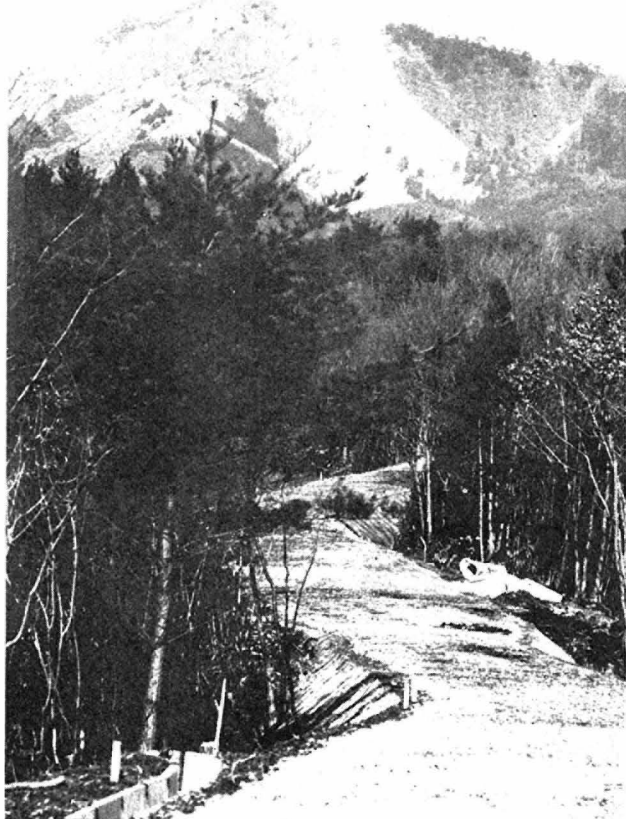
の力で我々を包んでくれる二カ年

後の完成がもたれる。

緑の園

いこの森

工事順調



写真は「いこの森」の遊歩道から森山を望む

子年親子のこの頃

今町 金田 貞子



大正十三年の子年この世に生うけて以て来四十八才の年輪

光陰矢の如しと云う古い諺通り今ここに実感として味わっている。昔から「子年生れは喰いばぐれはしない」とか「ねずみ金持」「ねずみは大黒隊の一の子分」などと云いわたるのになんと「ねずみ小僧」「どぶねずみ」など子年につながるエピソードや言葉がたくさん言い伝えられている。

私のねずみはその中の喰いばぐれ云々の方なのが年中貧乏暇なしたが、今日まで衣食住にはどうにか事欠かずに生きのびて来られたのも子年生れのお蔭かしら?と思うと何だかおかしさがこみあげてくる。

昭和二十三年の子年に生れた長女は初め娘を嫁がせる親の気持だったが、は嬉しいやら、寂しいやら何となく複雑な心境である。ねずみの様にコツコツと努力して堅実な家庭を築いてくれることを願うのみである。それだけでも、子年の私が子年に娘を出産し、子年の春に嫁がせることが偶然としては余りにも不思議な気がすると共に感慨無量なものである。

二女五郎年、三女は巳年生れたが二人共今から自分の当り年に嫁に行くなど親の苦勞もよほど、私達をとまどわせたり、笑わせたっている我が家の今日この頃である。



未来都市構造への胎動

中央線都市計画をめぐり

都市計画事業の近況

中央線と磯ノ目地区土地区画整理事業に伴う馬場目川河川改修

中央線は本町の中心部に通じる幹線道路で、自動車量の激増により現在の道路では安全に交通を処理できなくなってきました。この対応策として昨年の六月建設省から都市計画街路改良事業の認可を受け、事業費四百七十七万円をもって県事業として着手しております。

起点は八郎潟町の境界である細越山の突端から、中交バスターミナルを通り、役場前の馬場橋を渡り、昭辰町までの延長一・二八〇メートル、市貝一八メートル、この区間の事業施行期間は五年で、昭和五十年には完成する計画になっています。そこで、昨年七月から関係者の参集を願い、事業内容の説明会を開催して理解を深め協力をお願いしてきました。

一方、磯ノ目(靉土)地区土地区画整理事業については、都市化や核家族化によって宅地の需用が増え、郊外に目を向けると、「無秩序」に新しい工場や、住宅が建ち進んでいる状況であります。この中でも特に磯ノ目はその度合いがいちじるしく、住みよい街づくりの一環として、昨年の三月、磯ノ目地区三〇ヘクタールの土地区画整理事業を都市計画事業として行なうことを決定しました。早速昨年の五月には地区関係者全員を対象に事業内容の説明会や、また、関係町内や部落数ヶ所に於いても座談会を開き各自の意見を聞き歩いたところ、この地区の馬場目川河川改修事業を先に決めるべきであるとする意見が多く、昨年の七月に事業主体である県の係員によって、馬場目川河川改修計画の事業説明会を開催しました。

第196号

本年度から三カ年は、特に交通量の多い中交バスターミナルから国道二八五号の交差点までの区間を最重点区間として、関係者の意向調査等をして、移転の話し合いを重ねたと、現在四戸の家屋移転契約が成立し、移転先は昭辰橋地先の関係者の希望する土地となっています。本年度事業費一千二百万円に対する事業進捗率は、早くも一〇パーセントとなっています。

広報ごじようめ

この事業は継続事業でありますので、今後更に関係者との話し合いを進め、一刻も早く明るく、安全に通れる道路の完成に皆様のご協力をお願いします。

この河川改修事業区間は、町道西野橋から上流五城目橋まで、直線で結ぶ延長一、〇〇〇メートル、河川は約一〇〇メートルのもので五ヶ年計画となっています。

本年度から三カ年は、用地の買取とその面数は四・七ヘクタールの農耕地と一部宅地とを含み、関係地区代表者と数回にわたって話し合いを続け、ほぼまとまりの域に達しつつある現況であります。この河川改修が出来ることにより磯ノ目地区三〇ヘクタールは、市街地磯ノ目」が実現されます。

これは関係者はいずれまでもなく町民総べての深いご理解と協力的に出来なく、安全に通れる道路の完成に皆様のご協力をお願いします。

五城目都市計画街路網図



よい環境と豊かな愛情で 青少年の非行防止を

第八回 五城目町青少年健全育成研究会開催

戦後における青少年の動きを見ると、二十六年を頂点とした混乱期に少年の非行が多く、ついだ十九年を最高としてベビーブームなどから指摘されているが、かねてから指摘されていたが、四十五年頃から全国的に少年犯罪増加傾向が見られ、第三の時代が来たことを示唆している。

これは本町でも例外でなく、非行少年の補導されたものが、四十五年の八十三名に対して、四十六年は二百三十八名となり約三倍の増加を示唆している。

「選挙の知識」③

正月行事も終り、出稼に行かれる方が増えていますが、気がかりなのは三月の町議会議員の選挙です。

選挙の投票の方法としては、選挙人が選挙の当日、投票時間内に定められた投票所で本人が投票するのが原則ですが、例外的な方法として次のものがあります。

①代理投票

投票人が選挙の当日に次のような、やむを得ない事由により自ら投票所に行き投票することができるとき、選挙の告示の

時午後三時
三、会場
五城目小学校
四、参加対象
秋田地方部会代表者、青少年協委員、健全育成世話人、民生児童委員、青年社会事業ボランティア代表(五名)、子ども育成会代表十名、各小中学校生徒指導担当の先生、各小中学校校外生活指導部代表(二名)、教育委員、社会教育委員、公民館地区分館長、婦人団体代表十名、各児童館運営委員長

②点字投票

以上三の事由である選挙人は、町の選挙管理委員会がその事由が正しいものと確認した場合、不在者投票ができます。手続きは、出稼者の場合次のとおりです。

投票用紙等の請求は選挙人が、投票の期日の前日までに五城目町の選挙管理委員会に対して、直接に又は郵便で請求します。この請求は、告示の前でもできなく、投票に必要な文書

投票当日、自ら投票所に行つて投票できない旨の宣誓書と投票用紙等の請求書でありました。

以上の請求を受けた場合、町の選挙では投票用紙等を直接選挙人あて郵送します。

不在者投票は、投票日の当日の時間内にその選挙人が本来投票すべき投票所に到着しなければならぬので、手続きは早めにして下さい。

ともあれ不在者投票は選挙人が自分の意志で行なわれるべきであり、かならないことは言うまでもないことです。

「環境を浄化しましょう」
第三分科会
「よりよい世話人活動のすずめ方と役割について」

バスガイド三十名
「交
中」
秋田中央交通のバスガイドさん



写真は秋田音頭をおどるガイドさん達

講演
演題「諸外国の青少年」
講師 五城目第一中学校
教頭 小松正直先生

達一行三十名は、去る十二月十七日養護老人ホームを訪れた。これは年の瀬を少しも楽しく、家庭的な温かさで過ごさせようとして実現したものである。

当日は、若い女性達の訪問で日静かな老人ホームにもさすがに賑やかに、彼女達の鈴を振るような美声と自慢の踊りに、老人達はすっかりご満悦の様子であった。

石井院長をはじめ、関係者はバスガイドさん達の善意に深く感激をしていた。

老人ホームのおじいさん、おばあさん達へあげてもらいたいとの社会福祉協議会では早速町の養護老人ホームへ持って行ったが五十四名のおじいさん、おばあさんたちは勿論石井院長や職員一同の思いがけない贈物に心から感謝しておられた。

一月四日富津内小生徒会(会長伊藤光孝 代表者内小生徒会)一関市のグレンポールをかつて町の社会福祉協議会を訪れた。

富津内小生徒の美拳

富津内小生徒の美拳

歳末たすけあい運動の実績と配分について

昨年十二月一日から十二月十六日まで町民の皆様へお願い致しました歳末たすけあい運動の義援金については年未多忙の中から進んでのご協力誠に有難うございました。特に町内部落会長さんや役員の方々は何時に変わらぬ温かいご協力改めて厚くお礼申し上げます。

次にその実績と配分についてお知らせ致します。

一般募金の方は三七五、九九三円でこれに特志寄附金一九、七三三円昨年度繰越金二七、一八〇円預金利息三、九二八円合計四二六、八三三円の金額となりました。

これを生活保護世帯五〇世帯へ(二二、五〇〇円医療保護世帯二三世帯へ四、五三〇円生活保護世帯に準ずるような恵まれない家庭四四世帯へ一三〇、〇〇〇円結核等の長期療養者二三名へ三四、〇〇〇円施設収容者二(精神若や身障者、老人ホーム等)四名へ六九、〇〇〇円ねたたり老人一名二、一〇〇円全県的視野からの援けあい(県社)六、〇〇〇円郵便料その他四、二五五円合計四二、五五五円を十二月二十四日に支給致しました。

又特志寄附として小森本店から贈られたオーバードその他八一点、村上洋服店から贈られたアノラック腕袋カバネその他五一点、秋田銀行五城目支店職員の方から贈られたトレーニングシャツ等二一点は生活保護世帯の方へ差し上げました。

五城目町社会福祉協議会

